

.....

うきたむ考古通信

.....

2015年8月号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内 〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117 電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

♥ 考古資料館事業・考古の会共催事業報告

みる・きく・ふれる遺跡の旅20 「津軽をめぐる旅」

6月27日(土)・28日(日)開催

津軽の遺跡と展示施設を巡る旅の初日、資料館を5時30分、山形県庁前を6時35分に出発しました。11時30分に三内丸山遺跡に到着、現在青森市に単身赴任している村山考古の会副会長が合流し、昼食後、青森県教育委員会の川口 潤氏、濱松優介氏の案内で三内丸山遺跡を見学。濱松氏は3年前まで(財)山形県埋蔵文化財センターに勤めており、現在は三内丸山遺跡保存活用推進室で発掘調査も担当しておられることから案内をお願いし、風雨が強い中でしたが現在の調査現場も見学させていただきました。

その後、埋蔵文化財調査センターの川口さんにご同行いただいて解説していただきながら、列島最古の土器が出土し世界遺産登録を目指している外ヶ浜町の大平山元遺跡とその出土資料を公開する大山ふるさと資料館を見学しました。小さな施設でしたが重要な資料が展示されていました。

外ヶ浜町を後にし、国道399号線を西に向かい五所川原市の十三湖に到達し、あいにくの雨模様だったためバスの中から福島城跡の大規模な土塁と堀跡を見学しました。荒天のため内郭に行くことができず残念な思いもしました。その後十三湖の北辺をまわり、十三湖の北西にある中の島にある市浦歴史民俗資料館を見学しました。風雨の中、皆さん大変な思いをして中の島までの橋を徒歩で渡りましたが、その苦勞が十分報われた充実した展示でした。北方世界との交易・流通拠点の窓口として役割を担った中世の有数の湊町、十三湊遺跡の裏付け資料となる豊富な出土品が展示されていました。

資料館を見学後、再び徒歩でバスに戻り、発掘調査で現在の地割りとほぼ重なる町割であったことが判明した十三湊遺跡をバスの中からでしたが見学し、詳しい解説をしていただきました。

十三湊を後にし「メロンロード」を一気に南下し、つがる市の岩木川左岸の標高 10～15m程度の丘陵東南端部に立地する、縄文時代前期中頃～中期中頃の円筒土器文化を中心とする遺跡で、日本海側では数少ない縄文時代前期の貝塚を伴う集落遺跡の田小屋野貝塚を車中から見学し、説明を受けました。

つぎに亀ヶ岡遺跡を訪れ、土偶のモニュメント前で記念撮影を行い、本日最後の見学地の遮光器土偶の駅舎で有名な「木造駅」で巨大な土偶駅舎を背景に記念撮影を行いました。最後に重要文化財に指定されている円筒土器が多数出土した石神遺跡の近くにある道の駅モリタアーストップで各自がおみやげを購入し、第一日目の日程を終え、宿舎の「柏ロマン荘」に向かいました。宿舎では恒例の懇親会があり、案内いただいた川口さんを交えて、遅くまで盛り上がりました。

初日は出発してまもなく風雨が強くなり、それぞれの見学地でも大変な天気でしたが、皆さん、大いに満足した一日でした。

二日目は宿泊施設の柏ロマン荘を 8 時に出発。最初は五所川原須恵器窯跡群を訪ねました。資料館に展示されている須恵器は見たことのない器形が多く、山形県内のものとの違いが目立っていました。

つぎは青森市浪岡の中世の館へ。浪岡城跡の調査を担当され、現在は青森市役所の浪岡区長という重責を果たされている工藤清泰氏の説明をお聞きしながら、浪岡城出土品を中心とする展示資料を見学後、浪岡城を案内していただきました。時間が足りなかつたため、北館と城の中心部の内館を中心に、発掘調査時の所見や「城攻めに対する防御施設をどう配置するか」など、担当者ならではのお話を伺いながら見学しました。

その後、田舎館村埋蔵文化財センターで弥生時代の水田跡の展示説明を受け、田舎館式の多くの遺物を見せていただき、車中から田んぼアートと「垂柳遺跡」を見学しました。

弘前市内の「津軽藩ねぷた村」の駐車場で弁当の昼食をとった後、二日間案内頂いた川口さんと別れ、小雨混じりの弘前城へ行きました。天守閣の乗る本丸石垣修理のため、天守の引き屋の準備が行われている本丸を背景に、二ヶ所で記念撮影を行いました。弘前駅前村山副会長と別れ、最後は津軽氏初代為信の居城であった堀越城跡を車中から見学し、東北道を経由して帰途につきました。

案内や説明いただきました皆様に感謝しつつ、夕方には無事に帰ることができました。荒天の中、熱心に耳を傾けていただきました参加者の皆様、大変お疲れ様でした。

👤考古学入門講座 I が終了しました

平成 27 年 7 月 5 日 / 12 日 / 19 日 / 26 日 (日) の 4 回にわたって開催しました。
その内容は以下のとおりでした。

第 1 回 7 月 5 日 (日)

『考古学概論』

- 1 考古学とは
 - 2 考古学の対象と範囲
 - 3 考古学の目的
 - 4 考古学の方法
 - 5 日本考古学史
- 受講者数：21 名

第 2 回 7 月 12 日 (日)

『旧石器時代』

- 6 日本列島最古の文化
 - 7 後期旧石器前半期の文化
 - 8 後期旧石器後半期の文化
 - 9 尖頭器をもつ石器文化と細石刃文化
- 受講者数：23 名

第 3 回 7 月 19 日 (日)

『旧石器から縄文へ』

- 10 旧石器時代の自然と人類
- 11 土器の出現と展開
- 12 縄文土器の変遷

受講者数：17 名

第 4 回 7 月 26 日 (日)

『縄文時代』

- 13 住居と集落の変遷
- 14 食糧の獲得・加工保存
- 15 服装と精神生活
- 16 交易・流通
- 17 人骨からみた縄文人の特質

受講者数：18 名

受講者数は多いとは言えませんでした。会員以外の新しいメンバーの方もおられ、熱心に受講されました。これらの方々を、今後、考古の会にお誘いしていききたいと思います。

♥️勾玉・弓矢・石器をつくろう

5 月 30 日に続き、今年 2 回目となる体験学習が、夏休み期間中である 8 月 8 日 (土) に開催されました。勾玉づくり、弓矢づくり、石器づくりに、合わせて 74 名の方が挑みました。親子連れで夏休みのひとときを楽しむ姿が印象的でした。その後の夏休み期間中も体験学習を受け入れました。

展覧会の案内

👁️ 特別テーマ展 **災害と祈り** は8月5日(木)に好評裡に終了しました。この間には、「祈り」に通ずることに関係したのか、仏教関係者のご来館もありました。

👁️ 高島町町制施行120周年、町村合併60周年記念事業 **たかはた美術館展** を開催中です。本館は第二会場となり、主として浜田広介が収集・所蔵していた、長井市出身の菅原白龍の日本画や、自らの書、師會津八一の歌碑の拓本、交流のあった挿絵画家の作品や関係資料など21点を展示しています。ほかに、高島町出身で平成生まれの若手画家の作品5点も展示しています。別添チラシのとおり、この展覧会は9月20日までの開催です。

当館での考古資料以外の展覧会は初めての試みです。これまでに展示したことのない秀逸な作品が展示されています。この機会に是非足をお運びください。

👁️ 平成27年度企画展 **重要文化財水木田遺跡展** を準備中です。

7月10日に、(公財)山形県埋蔵文化財センターで保管していた「重要文化財水木田遺跡出土品」を、本館収蔵庫に無事搬入し終えました。

現在、今回の企画展で展示する資料の選定を進めています。現段階の構想では縄文土器48点、土偶残欠24点、土製品11点、石器73点、石製品6点合計162点を展示する予定です。

併行して図録の作成を行っています。今年度は開展時に図録を頒布できるよう準備を進めています。これまでよりページ数は少ないのですが、すべてカラー印刷となります。縄文土器の優品を楽しんでいただけるよう頑張っています。ご期待ください。

館主催事業の案内

♥️「秋の遺跡めぐり」

10月4日(日)に山形方面の遺跡や展示施設をめぐります。詳細は同封のチラシで。

👤考古学セミナー

今年度は4月号でもお知らせしましたが、考古学セミナーを10、11月の企画展開催時に実施いたします。その内容は以下のとおりです。

○全体テーマ『縄文時代中期前葉から中葉の遺跡と遺物』

①10月11日(日)・「山形県の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡の概要」

渋谷孝雄(当館館長)

「置賜地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-台ノ上遺跡-」

菊地政信氏(日本考古学協会会員)

- ② 10月25日(日)・「村山地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-西海淵遺跡-」
菅原哲文氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)
「最上地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-西ノ前遺跡-」
黒坂雅人氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)
- ③ 11月 8日(日)・「庄内地方の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-西向遺跡-」
須賀井新人氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)
「山形県内の縄文時代中期前葉から中葉の石器」
秦 昭繁氏(考古学研究者)
- 受講料は各日とも600円で、全3回受講の方は1,500円となります

🎧 企画展記念講演会

11月15日(日)に開催します。

講師 阿部 明彦先生 ((公財)山形県埋蔵文化財センター)

演題 『水木田遺跡にみる縄文時代中期前半の世界』

阿部明彦先生は縄文時代から古代まで幅広い時代の調査研究で有名な先生ですが、もともとは縄文時代中期の専門家として著名で、昭和53年の水木田遺跡発掘調査の担当者として報告書をまとめられました。

※受講料は500円となります。

📦 うきたむ学講座事業案内

♥ 「うきたむ学講座」 特別講座

10月10日(土)午後1時30分～4時30分に長井市西根地区公民館において『ここまでわかった縄文時代』と題する「うきたむ学特別講座」が長井の心を育む事業として開催されます。長井市教育委員会の岩崎義信氏、海藤 元氏や元文化庁記念物課主任文化財調査官の岡村道雄先生のお話があります。詳細は同封のチラシで確認ください。定員が50名ですので、お早めにお申し込みください。

♥ 「うきたむ学講座」

今年度も生涯学習文化財団の補助を受けることができ、別添チラシのとおり開催することとなりました。「大谷地とその周辺の自然と歴史を考える」というテーマで3回の講座となりますが、特に、第1回講座は「縄文時代前期遺跡の集落構造と生業・交流」として、11月28(土)・29(日)の二日間にわたって、押出遺跡の調査成果をめぐるシンポジウムを行います。

県外からも多くの方が参加される予定です。会場は南陽市えくぼプラザとなりますが、当館常設展のメインとなっている押出遺跡について理解が深まる機会となりますので、考古の会の皆様も是非ご参加ください。

東北情報館



企画展 『出羽庄内藩酒井家の遺宝』

入館料 一般／700円 学生／380円 小中学生／280円
8月22日～9月28日 致道博物館 TEL: 0235-22-1199



特別展 『米沢藩 医家の系譜』

入館料 一般／620円 高校・大学生／400円 小中学生／250円
前期9月19日～10月18日 米沢市上杉博物館 TEL: 0235-26-2666



特別企画展 『3万年前の旧石器ライフ』

入館料 一般／400円 高校生／200円 小中学生／100円
7月17日～9月23日 地底の森ミュージアム TEL: 022-246-9153



テーマ展 『火山灰から社会をよむ

—10世紀の巨大噴火と北東北—』

入館料 一般／310円 学生／140円 高校生以下／無料
9月19日～11月23日 岩手県立博物館 TEL: 019-661-2831



特別展 『日本のわざと美—重要無形文化財とそれを支える人々—』

入館料 一般／800円 シルバー／700円 高校生／300円 小中学生／無料
9月12日～10月18日 東北歴史博物館 TEL: 022-368-0106



『平成26年度発掘速報展』

入館料 無料
9月16日～11月16日 いわき考古資料館 TEL: 0246-43-0391